

2022.11.27. 苦しみを視野に入れる

第一ペテロ 5章 10節～14節

JD ファラグ牧師

主よ、この礼拝のひとつきを、全てあなたに捧げます。主よ、今はなんという時でしょう。主よ、今から特に「第一ペテロの手紙」を学び終えます。どうか私たちに語り続けてください。主よ、私たちを導き、教え、正し、愛し、私たちがどこにしようと、必要などんなことも、主よ、導いてください。私たちはあなたを愛しています。あなたの御言葉を学び、掘り下げるため、この時間とこの場所に心から感謝します。この時間を祝福ください。イエスの御名によって祈ります。アーメン、アーメン。

おはようございます。ようこそ。ご参加下さり、とてもうれしいです。オンラインで参加の皆さんも歓迎します。着席ください。「第一ペテロの手紙」、節ごとの学びに参加して下さり本当に嬉しいです。カポノが今祈った通り、今日で「第一ペテロの手紙」を学び終えます。そうなんです。次は何の書か知っていますか？ そうです、その通りです。「第二ペテロの手紙」です。それが今日の一番意味深な点です。さて、今回の箇所は、もちろん、5章 10節から 14節までです。ここにいらっしゃる方で、可能な方はご起立をお願いします。無理なお方は、着席したままで結構です。私が読みますので、ついてきてください。使徒ペテロは、御霊によって最初の手紙を終えるにあたり、こう書いています。

—I ペテロ 5:10—

あらゆる恵みに満ちた神、すなわち、あなたがたをキリストにあって永遠の栄光の中に招き入れてくださった神ご自身が、あなたがたをしばらくの苦しみの後で回復させ、堅く立たせ、強くし、不動の者としてくださいます。

—I ペテロ 5:11—

どうか、神のご支配が世々限りなくありますように。アーメン。

なんという祈りでしょう！

—I ペテロ 5:12—

忠実な兄弟として私が信頼しているシルワノによって、私は簡潔に書き送り、勧めをし、これが神のまことの恵みであることを証ししました。この恵みの中にしっかりと立っていなさい。

—I ペテロ 5:13—

あなたがたとともに選ばれたバビロンの教会と、...

(これはローマのことかもしれないし、現代のイラクの文字通りのバビロンのことかもしれません)

...私の子マルコが、あなたがたによろしくと言っています。

—I ペテロ 5:14—

愛の口づけをもって互いにあいさつを交わしなさい。キリストにあるあなたがたすべての者に、平安がありますように。

祈りましょう。よろしければ、一緒をお願いします。天のお父様。本当に、本当に、感謝します。

主よ、あなただけが御出来になる通り、いつもとてもご忠実であられるように、聖霊の、あの静かで小さな声で話されるのを私たちは聞くためにここにいます。主よ、私たちはあなたが話されるのを聞きたいのです。その為に私たちは、忙しい生活の中で、私たちの注意を引こうとする全ての音量を下げる必要があります。その数は膨大です。主よ、私たちはその音量を下げ、消し、あなたが語られる通り、あなたの御声を聞きたいのです。必要なら、非常に具体的に、個人的に、また内密かもしれません。あなたは私た

ちの心を知っておられるからです。ですからお語り下さい。特にここにいる人、オンラインで見ている人、本当に苦しんでいる人たちに。彼らは本当に苦難の中にいます。主よ、どうか励まし、慰め、強めてください。主よ、あなたの御言葉の中で、私たちが共に過ごす時間を通して、そうして下さることを前もって感謝します。イエスの御名によって祈ります。アーメン、アーメン。

ご着席ください。ありがとうございます。では今日は、私たちの苦しみを聖書的な正しい視点、また恐らく更に重要な、永遠の視点に置くことの重要性について、お話ししたいと思います。

その理由はこうです。使徒ペテロは、聖霊によって、この第一の手紙の最後を、苦しみに関する、必要な注意喚起で結んでいます。もし皆さんが私同様なら、色んな意味でそうだと思いますが、手紙の終わりが迫ったとき、あなたは素早く目を通して、次に進みたいと思うでしょう。イントロも同じで、主の御名による挨拶、恵み、平和など、形式的なのは分かっているはずです。では、本題に入ろうよ。

"Let's cut to the chase." (本題に入ろう。)

ところで、古い映画にはよく、追跡シーンがあって、そこが一番興奮する場面です。"cut to the chase (単刀直入に言う)"という言葉の由来はそこからです。さて、これではっきりしましたね。-(笑)-

でも私たちって、そうですね？ 早く本題に入りたい、一番興奮する場面に入りたいのは、皆同じですよ。ところでそれが理由です。映画が終わって、正直になりましょうよ。皆さんのうちの何人が、

「よし、これからエンドロールだ！」と思いますか？ 観ますか？ いや、みんな立ち上がります。実際、それはちょっと迷惑な話です。なぜなら、人々があなたより先に立っていて、あなたは出たいのに遅くなる。エンドロールです。誰が観.....おお、これはどうでしょう...これは非常に巧妙ですよ。この点は評価できますね。実に賢いです。エンドロールが始まり、誰もが荷物を片付け、立ち上がり、帰り支度をすると、突然、別のシーンが映し出され「待てよ、待てよ！」となる。「まだ帰れないよ。」そして、エンドロールが...「OK、帰ろう。」「あ、もう1シーンあった。」「まだ出られない。」でも、エンドロールが始まったら、私たちはすぐに出ます。それはやめましょう。ここでは止めましょう。そのようにはなってませんから。事実、使徒ペテロがこの手紙の最後に書いていることは、真理がいっぱい詰まっています、

特に、彼らが極度の迫害にあい、苦しみや困難や苦難の当時、動じることなく、堅く立つためです。今、彼がしようとしていること、私たちが見ようとしていることは、私は4つを見つけました。もっとあるかもしれませんが、特に試練にいる時、思い出す必要があるのも、改めて「注意喚起」と呼びます。戦いの真只中、苦しみの中にいる時、全ての感情が押し寄せ、時には激しく、圧倒され、視野がなくなります。誰かそばに来て、「注意喚起」してくれる人が必要です。しかし、神は。しかし神は、あなたを励まされます。あなたが最も励ましを必要とする時、これからお話ししますが、あなたが本当に人生のその試練の中にいて、苦しみ、辛く、傷ついている時です。その時にこそ、具体的に、あなたが経験していることを視野に入れるため、注意喚起が必要です。焦点を変えなければなりません。自分の試練や状況、逆境だけに目を奪われ、神を見ていないから。あなたは、神に目を向けていません。あなたは思い起こす必要があります。その状況を、永遠というレンズを通して見る必要があります、その逆ではありません。困難な状況に陥ったとき、それに心が奪われれば奪われるほど、苦難が大きくなるのではないですか？ 初めはこう

いう感じです。「よし、これは試練だ。間違いない。」「これは大変だ。間違いない。」でも、そのことだけに集中し出すと、心配し始め、次にするのが、心配を育ててしまいます。こうなるまでに時間はかかりません。「ほ～、これは大問題だ！」「これは本当に大問題だ！」それは、あなたが大きくしたのです。問題を大きくすることで、神を小さくしてしまいます。だからこそ、福音書全体を通してイエスが弟子たちに

仰るのが、記録されているのです。厳しい口調ではありません。救い主の御声には、軽蔑や嫌悪感はありません。主は、

「信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか。」(マタイ 14:31)

神はとても大きな方なのに、なぜあなたの信仰はそんなに小さいの？ その状況を見れば見るほど、苦難がどんどん大きくなり、神はあちらで仰っています。

「もしも～し。わたしのレンズを通して、永遠の視点、聖書の視点を通して、あなたの状況を見なさい。そうすれば、必ず苦難は縮んで消え去ります。「ああ、もっと早くそうすれば良かった。」思うでしょう。自分が良い決断をしたと思うのは、もっと早く決断しておけばよかったと後悔する時です。最近も何度かあったのですが、いつも「わあ、してよかった！」と思いきや知らされます。些細なことかもしれませんが、大きな違いがありました。そして気がつく...自分で自分を苦しめているのです。皆さんは、そんなことはされないでしょう。自分に向かって言います。

「なんでだよ、このバカ、なんでもっと早くやらなかったんだよ。手間も困難も苦勞も省けたはずなのに。」まあ、少なくとも私はやりました。でも、その注意喚起が必要です。注意喚起される必要があります。

「あ、ちょっと待って。この事から一步下がってみる。視点を変える必要がある。特に苦しみについては、きちんとした視点で見る必要がある。」

それを学んでいきます。今からその4つを見ていきます。この4つは全て、永遠というレンズを通して苦しみを見る様に、私たちの焦点を変える性質があります。最初のもは10節にあり、これはデカイです。「私たちの苦しみは、少しの間。」「少しの間？」これはもう...疑念があるでしょうから、それに対処する必要があります。私は、皆さんの心を読むことができます。

「少しの間？ずっと続いていますよ！」実際、最近の私の祈りは、イスラエルの甘美な詩人ダビデの詩篇のように、「ああ、主よ いつまでですか。」それに対し、ペテロは言います。

「あなたの苦しみは、もうしばらく続きそうです。もうしばらく？ 何を言ってるの？ お～永遠に照らして考えると、ほんのしばらくの間です。ここで練習をしてみましよう。言わば、計算をしてみましよう。いいですか？ 議論の目的で、仮に、私たちがこの世で生きるのは、70年としましよう。一度試したことがあるんですが、80年でして！という人がいました。誰だか分かりますよね？ じゃあ、80にしましよう。それでいいです。80歳、これでいいですか？ 80でいいですか？ 80、よし、80年。

議論の目的で、念のためもう一度言うと、その80年は、苦しみと困難と苦難にまみれた非常に辛い年月だったとします。80年間！ 80年もの間、あなたは苦しみました。まあ、最初の5年は覚えていないでしょうけど。じゃあ、75年ですね。正確に言いましよう。つまり、あなたの80年の人生のうち、75年間はとにかく辛く、大変苦しかった。では、その80という数字を、今度は永遠という数字に重ね合わせましよう。永遠は何年でしょう？(修辭的) 答えられませんね？ 永遠とは、永遠です。つまり、永遠に続きます。Everlasting Life、これは深いですね。命が永遠に続くということです。OK。これが精一杯です。愛想つかさず理解して下さい。これで少しは見方が変わりましたね。使徒パウロは、ペテロが言っていることに反復していませんか？ この地上の人生における苦しみは、私たちが待ち受ける栄光に比べれば、取るに足りません。(ローマ 8:18 参照)

ペテロがここで言っているのはそういうことです。彼は、一時的な苦しみと永遠の栄光を対比しています。そのような見方をすることで、全てが変わってきます。どうしてそうなるのか知りたいですか？

その質問にもペテロが答えてくれています。視点を変えて自分の苦しみを見、その苦しみの中に神の恵み、神の召し、神の回復、そして不動の強さを見ることができるのです。

「待ってください。どうやってそれを得たのですか？」それが10節にあります。ペテロは彼らへの手紙の締めくくりに、彼らのために祈っています。使徒ペテロのような人が私のために祈ってくれるのなら、それ頂きます。そんな人に祈ってもらいたいです。ところで、あなたのために祈ってくれるペテロより偉大な人、誰か知ってますか？ イエスです。イエスが、あなたのために祈っておられることを知っていますか？ イエスは、地上におられたとき、私たちのために祈ってくださいました。そして今、父なる神の右の座におられ、私たちのために常にとりなし下さっています。すごいです。主よ、感謝します。

試練の中において、とても苦しい時、祈るのも辛い時がありますよね。私の人生にも、あまりに激しく、あまりに辛くて、祈ることさえできない時がありました。御言葉を読むどころではなく、その痛みの中、出てくるのはうめき声と涙だけでした。ある人は、それをリキッド・涙に例えました。涙の祈りは、時に、言葉より強力な祈りです。ですから、ペテロは、永遠に注意を向け直してほしいという願いを込めて祈っています。**イザヤ(23:6)**はこう書いています。

「主は、志の堅固な者を、あなたは全き平安のうちに守られます。その人があなたに信頼しているからです。」

問題から目を離さない。苦難を養うのを止め、世話することを止め、育て大きくすることを止めなさい。目を離してください。主に目を向けてください。あの歌大好きです。カポノ、またやってくれたね。どこにいる？ あ、礼拝堂を出てしまったんだね。カポノはいません。戻ってきてほしいですね。私に歌わせたくないでしょう？ それは残酷な話ですよ。

♪ イエスに目を向けなさい。イエスの素晴らしい御顔に目を向ければ、地上のものは不思議と色あせる
♪ 何が問題だったっけ？ 私の目は主に向いている。私の心が主にとどまると、全てが正しい視点に置かれる。このように言わせていただきます。楽しみにしていることを知ると、どんなことでも乗り越えやすくなります。今、私が知れば、今、私が経験しているのは、クリスチャン人生で経験した中で最も辛いことですが、待ち受けている栄光を理解すると、全てが変わります。私の視点が変わり、見方が変わります。私は今、神の恵みを目にします。神の恵みはこの中にあります。そんな中でも、主は私にとっても良くして下さいます。神の召し。どういう意味ですか？

「キリスト・イエスにあって敬虔に生きようと願う者はみな、迫害を受けます。」(II テモテ 3:12)

キリスト・イエスにある者は、その苦しみとの交わりを受けます。それが召しです。回復。お～私は回復が必要です。今、回復の前倒しは可能ですか？ いいえ、それが待ち受ける事です。それ待ち望むからこそ、不動の強さを手に入れられるのです。あなたは不動です。あなたは不動です。「使徒の働き」の中で、使徒パウロが言ってます。私はこれ好きです。パウロは言います。「私を動かすものは何もない。試してみろ。私は何事にも動じない。私は何事にも不動だ。私は何にも揺るがされない。何も私を動かさない。なぜでしょう？ 私は主において不動で、堅固だからです。だからこそ、パウロは聖霊によって、苦しみについて書けたのです。彼は、苦しみについてを知っていました。彼は、苦しみを語る権利と、資格があると思います。彼は、コリントの教会(II コリ 11)に、自分の苦難の履歴書を挙げています。最近それを読みましたか？ 気の弱い人には向きません。苦しみを前向きにとらえることができるようになります。パウロは、自分の苦しみをリストアップしてます。それは酷いものです。難破したことが3度。一度だけでも、私なら終わりです。もうおしまい。39回の鞭打ち。40 マイナス1の、39回。石打ち。普通に

石を投げられるのとは、わけが違います。石で殺そうとする。こんな描写で申し訳ありませんが、彼らは石で、パウロはリステラで、石打ちで殺されそうになったのです。どうやって、彼を殺すつもりなのか？あの辺は、岩がいくらでもありました。それで彼らは岩を拾って...なんという死に方でしょう。ゾッとする方法です。殺そうとしたのです。どうやって？ 彼らは、岩を投げつけるのです。そして、基本的に死に至らせます。想像してみてください。これは生々しいですが、使徒パウロは倒れ、彼はそこに横たわっていて、おそらく息をしていなかったのでしょうか。しかし、蘇生しました。復活したのは、パウロが第三の天に挙げられたことを後に注意深く書き記した（II コリ 12 章）からという説もあります。パウロは、14 年間、それについて話しませんでした。そして、ついに話すとき、死んで天に挙げられたときの体験を語らざるを得なかったのです。彼は、目が見ることができないものを見ました。しかし、その先に待ちうける栄光を語るのには犯罪なほどでした。そのために神は、彼の肉体にとげを与えなければならなかったのです。なぜなら、神が私を天へ連れていかれ、使徒パウロが見たようなことを私に見せて、戻ってきたら、私なら講演ツアーや書籍販促ツアーをするからです。「石打ちされ、天に挙がり、戻った人」

JD Farag 著 そして、私は思い上がり、思い違いをするでしょう。だから神は.....パウロでさえも神に求めて祈り、神に懇願したのです。この肉のとげが、彼を苦しめていたからです。ところで、その肉のとげが何であるかを、意図的に具体的に書いていないのは、もし、正確に知っていたら、---どうか推測はやめてください--- もし、その肉体のとげを知っていたなら、あなたの人生で苦勞している分野でなければ、それを退けてしまうからです。それを理由に、「私には関係ない。」と言うでしょう。そのとげは空白になっているので、肉体のとげが何であれ、あなたの人生で当てはめられます。当てはめようとするとき、妻や夫を見てはいけませんよ。実はこれで話の向かう先があります。ご辛抱ください。

14 年後にようやくそのことを書いたとき、パウロはそれを、三人称で言っています。「私はあるひとりの人を知っています。」「それはパウロ、あなただ。何を言ってるんだ？」それくらい、その経験を話すことに慎重だったのです。で、ポイントは、パウロはずいぶん苦しみました。難破、石打、殴打、リステラでは死に至らしめられました。蘇生した後はどうしたか知ってますか？ 彼はリステラに戻ります。聞いてください。私がパウロならすぐ分かります。

「自分が、ここでは歓迎されないことは分かっている。私を街の外に連れ出し、殺そうとし、死ぬよう放置された。」私なら戻ってきません。私は戻りません。スリッパの砂を振り払い、この街から出て行きます。「いいよ、私は歓迎されていないんだから。長居したし、歓迎されていない。」

しかし、パウロは違います。彼は戻って行きます。そんなパウロが大好きです。ちなみにそこは、テモテの出身地です。パウロは、テモテの信仰の父です。さて、この一時的な苦しみについて待ち受ける永遠の栄光の観点からもう一つ話します。それは非常に短く、永遠に照らし合わせて考えると、ほんの少しの時間です。このように提案させていただきます。一緒に考えてほしいと思います。こんな取引にサインしますか？

「残された人生全て、この栄光を得るため、この期間、この苦しみを経験しなければならない。」その取引にサインしますか？ 私ならします。私たちは、キリストのもとに来たとき、基本的にそうしました。でしょ？ 私たちの 80 年と永遠とは比較することができないからです。つまり、その 80 年間は全くの苦悩と痛みと苦しみと苦難と困難でしかありませんが、私がそれを経験するのは、永遠のためなら、永遠に、永遠に、永遠に、アーメン？ アーメン！ それでいいのです。どこにサインすればいいんですか？ OK、気分が良くなりました。皆さんも同じでありますように。11 節、そう、私たちの苦しみ

はつかの間ですが、「神の御力は永遠」ペテロがここで言っていることは非常に興味深いです。これにはいくつかの理由がありますが、特に、彼らのために祈っていたのに、突然、自分を抑えきれなくなったようで、ペテロは賛美を爆発させました。

「お～、あなたの御力、お～主よ。お～、主よ、あなたにご栄光を。あなたは、私たちの、全ての賞賛と誉れと栄光にふさわしい方です。永遠に、永遠に、アーメン。」

あ、元に戻りました。ごめんなさい。今、元に戻りました。なぜ、そうなるのか？ なぜなら、彼は完全に把握し、完全に理解し、キリストにおける永遠の栄光を完全に受け入れたからです。永遠に。永遠に。それがゲームチェンジャーです。これで全てが変わります。ですから、神のご栄光と御力と永遠の命があるなら、ところで、皆さん待ちうける栄光を思い出したいなら、黙示録 20 章、21 章、22 章を読んで下さい。実は、「聖書預言・アップデート」でそのことについて少し話しました。つまり、その前にも.....これはあくまで導入です。永遠への、千年間の導入部です。千年王国と呼ばれます。獅子が子羊と一緒に横たわる。それだけでも入場料を払う価値がありますよ。コカトリスの巣窟があり、猛毒の大蛇と子どもが遊ぶ。これが千年王国です。ほ～すごい！ それが地上にあり、地は墮落する前、罪が入る前のエデンの園のような状態になるのです。千年間です。それでまだ永遠は始まっていないのですよ。新しい天と新しい地？ 予告編はあるのでしょうか？ 映画の話に戻ります。すみません、少しだけ映画の話....。初めに予告編がありますよね、あれはとても悪魔的なものです。ところで、久しぶりに映画館に行きました。映画が、どんどん悪魔的になっていきますね。しかし、どれほど、そういう予告編が多くなっているような気がします。実際に映画本編が始まる頃には、もうポップコーンがなくなっている。おかわり自由でソーダが飲めるのはありがたけど、トイレに行きたくなる。とにかく、私の悩みはもう十分です。つまり、予告編も終わっていませんよ。そうそれで千年王国になって、それから本番です。永遠の未来！ 私たちはよく冗談を言いますよね、純真に。純真な天真爛漫さです。

「天国へ行ったら、主に質問するんだ。」というようなことを言う。いいえ、しません。しません。聞いてください。携挙の時、引き上げられると、キリストにある死者がまずよみがえり、何よりも、愛する人に会います。私たちは、永遠に主とともにいることとなります。空中で主にお会いし、主は私たちのためにご用意されたその場所に私たちを連れて行かれます。

「そうでなかったら、わたしがいるところに、あなたがたもいるようにするためと言ったのでしょうか。」
(ヨハネ 14:2-3)

わたしがいるところ（天）で、あなたがいるところ（地）ではありません。わたしはあなたを婚姻部屋に連れて行き、そこで私たちは婚姻を完了し、一緒に結婚を祝うのです。わたしは花婿で、あなたは花嫁です。「お、あなたは主に質問するのですか？」それはいいでしょう。7年間。あなたは、メロメロになり....ハネムーンの期間ですよ。「質問は何だったの？」「気にしないでください。どうでもいいことです。重要ではありません。取るに足りません。忘れてください。もう、どうでもいいんです。私はあなたと一緒にいるのですから。」あるいは、私たちはこう言います。実際私は、説教壇からでさえ、よくこれをやります。

「あ～早くエレミヤに会いたい。」待つのはいいですが、何千年か分からない。永遠は測れないのですから。ただ神を賛美するのです。あなたがたは御座にいて、主の御前に冠を置き、「ふさわしい、ふさわしい、ふさわしい子羊。」と賛美するのです。残念で、実際、悲しいのは、敵は、あなたに、天国で、ただハーブを弾くだけのイメージを持たせることに大成功しているからです。いいえ、違います。まず、ハーブをどこで手に入れたのかわかりません。ハーブがないわけではありません。あるはずでしょうが、もし

あれば、あなたはその弾き方を知りましょう。私もそうです。私たちは、栄光の中にいるのですから。ですから、それでいいんです。私たちはハーブが得意なのでしょうか？ ハーブの話から離れましょう。道が黄金。もう夜はありません。もう悲しみはありません。もう泣きません。もう死にません。質問は何でしたっけ？ それが永遠です！ 一拍手ー そうです！おお、鳥肌です！ 本土の皆さん、鳥肌が立つ、です。つまり、鳥肌だけではありませんよ。では、その鳥肌を、今の試練に重ね合わせてみましょう。

「待って、私にそれがあるの？ それなら大丈夫。今あるのは悪いことだけど、でも私は大丈夫！」となります。ここで話しているのは永遠の話です。

3つ目、12節、これもまたデカイです。これに少し時間をかけたいと思います。

しかし、「今こそ励ましあう時」

では、説明します。ここまでがペテロの祈る祈りで栄光が世々限りなくありますように、アーメンと祈り終えました。そして今、彼は角を曲がります。なぜなら、ちょうどここで、永遠へと焦点を変えたからです。ですから、ペテロへの返答は、

「OK。ペテロ、分かりました。イエス様、感謝します。待ちきれません。栄光が待ちうけるのは分かりますが、家賃の支払いは明日です。今、ここではどうすればいいのですか？ 先の未来のことは分かります。永遠の未来は知っています。先に待ち受ける栄光は知っています。とても心強く思っています。そのための必要な視点があります。しかし、これをどうしたらいいのか？」

分かりました。はい、彼は祈ることから励まします。ペテロがここで言っていることは、一読しただけでは見逃しがちで、ここを理解しないと大きな間違いを犯すと思います。これもまた、神の御言葉の中で、なんとなく読み飛ばしてしまう箇所の一つです。彼は手紙を締めくくります。

「ジョーに、ボブによろしく、サイラス、マルコに。」つまり、彼が彼らに言っていることはこの信者たちはひどく苦しんでいて、非常に落胆しています。あえて言えば、落胆は絶望と意気消沈へ変わっていきます。そして、ペテロが登場します。彼は今、彼らのために祈り終えたところで、今度は、彼らを励ましたいと思っています。私たちが非常に困難な時を過ごしている時、人生の中で最も励ましを必要とする時だと思いませんか？ 少なからず。これは原文ですよ。欲しい人はどうぞ。いや、それほどでなくていいんです。時間はかかりません。ちょっとだけ、背中を押してあげる。ただ、適切な言葉をかける。

「兄弟、姉妹、苦勞してるのはわかります。主は私の胸にあなたを刻まれました。あなたのために祈っています。ただ、あなたを励ましたいのです。」

あ～そういう時が一番必要です。そして、それがここでペテロが聖霊に導かれしていることです。彼はこの励ましの言葉を書きながら、証しています。これは強い言葉です。ここを捻じ曲げてはいけません。宣誓での証をしているかのようです。皆さん、映画館から法廷へお連れしましょうか？ 今、そうしましたよ。今、私たちはあの映画のスクリーン、大画面の前に座っているのではなく、今、法廷に座っています。これは真実、完全なる真実、真実以外の何ものでもないのを証しています。だから神よ、助けてください。私はあなたに証しています。あなたの証は？ ペテロ、あなたは何を証しているのですか？ これは神の真の恵みであり、その中にしっかりと立つことができることを証しているのです。元気を出さない。強く立つのです。あなたがたには出来ます。私は証しできます。ちなみに彼はできましたよ。ペテロが経験したことを考えます。つまり、パウロが経験したこととは必ずしも比較にも競争にもならないかもしれません。二人の間にはあったかもしれません。わかりませんが。しかし、パウロのリストはかなり印象的です。彼はその全てを生きのびました。まあ、ペテロも相当な苦勞をしたんですけどね。

ところで、彼の人生の終わり方ですが、イエスは彼のために備えたものを、既にご用意しておられました。彼は救い主のように十字架につけられたのです。ペテロが何をしたか知っていますか？ 彼はイエスのように十字架につけられるのを拒否し、救い主と同じように十字架につけられる価値が自分がないとして、逆さ十字架につけられることを要求しました。ほ～、また鳥肌です。つまり、言いたいのは、ペテロは、聖霊によって私の人生に語りかけ、聖霊によってあなたの人生に語りかけ、励ます権利を得たのです。「兄弟姉妹よ、私はそうだったのですよ。」私は、あなたの今いる所にいました。私はあなたが経験したことを経験しました。神の真理、神の御言葉、神の恵みの権威であなたに証します。あなたは必ず乗り越えます。神の御言葉の権威に基づいて約束します。私はそれを誓います。彼にはその権利があります。それをここで語っているのです。最後の1つに移る前に、さっと言わせてください。思うに、最後まで聞いてください。お付き合いください。

キリストの体にもっと励ます人が必要です。私が今まで聞いた中で最高の描写は、今は主と共にいるチャック・スミス牧師のものです。実際にある会議で、昼食の時間に、午後のセッションの準備をしていたところ、交差点で事故が発生しました。そして、チャック牧師は...つまり、忠実に再現しますと...その描写を彼のセッションで使われました。

「さっきの事故ですが、救急隊員が現れて現場に到着し、その後、警察も現れて現場に到着しました。このとき救急隊員は、誰が悪いのか、誰が法律を破ったのかを判断するためにはありません。それは法執行機関です。彼らは、怪我をした人、負傷した人を治療するためそこにいます。警察官は、誰が悪いのか、誰が赤信号を無視したのか、誰が非難されるのか、誰が法律を破ったのか判断するためにいます。そして、彼が言いたかったことは、とても深いです。キリストの体に、警察官が多すぎる。私たちは皆、非難の矛先を向ける。私が落胆し、落ち込み、もがき、傷ついている時に一番して欲しくないのは誰かに非難の矛先を向けられること。「ええ、あなたは間違っている。」オーケー。ありがとうございます。もう離れてくれませんか？ ほっといてください。連絡もしないでください。私の電話番号はなくして。とりあえずブロックしておきます。ー(笑)ー

今ならできます。昔はできませんでした。まだ発信者番号通知が始まる前のことです。恐ろしい時代でした。それ自体が何とも難しいのですが、話がそれましたね。いいえ、警察官なんていません。もう、何もかもがおかしいと思います。私たちは墮落した世にいます。私が本当に必要なのは、私のところに来てくれる救急隊員です。私は傷つき、怪我をし、出血しています。救急隊員が私を助け、奉仕し、励ましてくれることが必要です。その励ましは、そんなに大げさなものでなくてもいいんです。些細なことでもいいんです。あなたがわざわざ励ましの言葉をかけてくれるだけで..... たとえそれが、あなたが苦勞していることを知っているよ、というような小さな言葉でいいんです。

「あなたのために祈っているよ。愛してるよ。」そしてハグ。次はその話をしましょう。つまり、人々が必要としているのは、あなたの口ではなく、泣ける肩を必要としています。それは結婚の描写で、また別の機会に説教をしましょう、夫たちよ。なぜなら、私たちは全てを解決したいからです。

「どうした、どうしたんだ？」私たちは、とても論理的です。妻達はとても感情的です。「とりあえず、どうすれば修正できる？」「まあ、まずは口を閉じて。」ー(笑)ー 共鳴しましたか？ 彼女はあなたの口を必要としていません。それは警察官です。彼女には泣くための、あなたの肩が必要です。それは救急隊員です。聞いてあげてください、泣かせてあげてください。そして舌を慎む。今とても罪を示されました。最後の1つに移りたいと思います。

私たちには、非難する警察官ではなく、励ます救急隊員が必要なのです。また、悲しい事に、悲しい時代です。キリストの体の中で本当に苦しんでいる信者が、信仰が足りないと思われぬように、安心して兄弟姉妹のところに行き、悩みを打ち明けられないのは、「信仰はどうしたの?」とか。「どうしたんだい? 元気出せよ、弱虫ちゃん。」ええ、本当に? ちなみに私はそれが嫌いです。「使徒の働き 28 章」の使徒パウロにそれを言うんですか? とても興味深いのが、ルカが記録したものです。ルカは、その船にいました。ローマに行く途中、難破したのです。パウロはローマに行くことになります。彼はその旅の途中マルタ島に停泊しました。なぜなら、神が島民を救おうとしておられたからです。それで難破したのです。さて、パウロは過去に 3 度、難破していることを忘れてはなりません。彼は難破の博士号を取得していました。これは彼の最初の試合/難破ではありません。さて、そんなわけで彼は今、難破船 4 号でここにいます。使徒の働きに記されている記述を読めば、彼がその船に乗っていることがわかります。ただただ信じられません。つまり、パウロを含め、乗組員全員が生き残る望みを捨てるところまで来ていたのです。ルカは、書いています。

「私たちはついに（興味深い言葉）望みが断たれようとしていた。」（使徒 27：20 参照）

私たちって誰? 私とパウロです。私たちはあきらめた。もうダメだと思いました。これが終わり方。主よ、私は家に帰ります。つまり、私は今まで 3 回生き延びましたが、この嵐は違う。これはもう無理。ですから、あなたはその船に乗って、パウロに言うのですか? 「元気出せよ、弱虫!」それは、うまくいきませんね。それどころか、やりすぎです。そういうことです。ここに何かがある、もしかしたら、これはここにいる誰かのためかもしれません。私たちの人生には、絶望的な状況になってしまい、希望を失ってしまう時期があります。パウロは、信仰の人ではなかったですか? はい、そうです。その彼でさえも、他の箇所に記されているように、人生に絶望していたのです。彼は自分の人生を終わらせたかったのです。実際、彼はとても率直にこのことを話しています。彼は、残るべきか去るべきか悩んでいます。

「私にとって死ぬことは益、生きることはキリスト。」（ピリピ 1：21）

どちらを選んだらいいかわかりません。あなたが私を必要としていることが分かっているからです。あなたがたが私を必要としないのなら、私は主のもとに帰ります。それが私の希望です。でも、私がまだここにいるのはあなたがたのせいです! そんなことはありませんが、そこがポイントです。パウロは本当に主と一緒にいたいのですが、彼は彼らが自分を必要なのを知っていました。しかし、彼の心はすでに天にありました。彼の心はすでに主に、主と友にありました。それで、この船に乗ったのですが、彼は全ての希望を失くしました。あの難破船で助かり、生き延びるために、パウロが何かしたことがあるでしょうか? いいえ、全くありません。ただ主にしがみつけばいいというものでもありませんでした。信仰にしがみついて、あきらめない。いいえ、パウロはもうあきらめています。もう全ての希望が消えました。ついに全ての希望が失われた時、”私たちが”全ての希望を失った時、神は何をされるでしょうか? それは、私たちが主にしがみついて握っているのではなく、主が私たちを掴んでおられるのです。そして、私の人生には、パウロのように思ったことが何度もありました。

「これで終わり! これは抜け出せない。つまり、神は私に色々なことをさせてくださったけれど、これが終わり方。そして、あなたがただ諦めて、降伏し、生き残ることができないと思う時、主が御手を伸ばされ、あなたを掴み、引っ張り、生き延びさせられます。乗り越えられないもの、あなたは、生存不可能なことから生き延びるのです。そして、その事を通し、神の恵みを目の当たりにします。時に、そのようなことが終わって、

振り返ってみると思うことがあります。「なあ、よくあれを乗り越えたなあ。」あなたではありませんよ。神が乗り越えさせてくださったのです。一拍手—

では最後にもう1つ。最後の1つ、と言ってませんよね？ ご存知ですか？ パウロがコリント人への手紙の中で、

「あなたが辛い試練や困難、苦しみを経験したとき、自分たちが神から受ける慰めによって、あらゆる苦しみの中にある人たちを慰めることができます。」(II コリント 1:4)

そして、主はあなたを慰め、乗り越えさせられます。そして今、ここにあなたの兄弟姉妹がいて、彼らは、あなたが経験したこととまったく同じことを経験しています。あなたは救急隊員として彼らのそばに行き、あなたが経験したのと同じように、主から受けた慰めを彼らに与える必要があります。実際、私はさらに一歩進んで言います。個人的な経験から、私の人生でのいくつかの試練は、多くの目的と理由があり、神は、ローマ人への手紙8章28節に約束されているように、そのひとつひとつが例外なく神のご栄光のために働かせてくださっています。しかし私の人生には、自分のためだけでなく、他人のためになるような試練もありました。その一例が、娘のノエルが亡くなった時です。その後、神は他の人の人生に何度それを用いられたでしょうか？ 私は彼らを慰めることができました。私たち夫婦は、彼らを導き、励ますことができました。

「あなたはそれを乗り越えられます。私たちも神が乗り越えさせてくださいました。お～、今はこれが終わりと思えます。これが終わり方だと。もう乗り越えられない。しかし、神は。それを乗り越えさせてくださいます。そして、あなたが今経験していることを私が経験した時、神が私を励まして下さった励ましを、あなたにも伝えたいのです。私は証することができます。私を証言台に立たせてください。宣誓します。これは真実です。私が生きている証拠です。これが真実です。私を見てください。あまり見ないでほしいですが、見てください。もし神がお出来になるなら...とにかく、それはまた別の説教ですね。最後の1つに移りましょう。あと少しで完了です。ご忍耐感謝します。13節と14節。これは、全て愛についてです。

「本当に辛い時の、励ましの言葉同様、そういう時、愛されることが必要。」

そして、それはとても癒され、励まされ、慰められます。ここも「適切な言葉」での締めくくりです。興味深いのは、この言葉は、当時から現代に至る文化的躍動感に関連します。悲しい事に、ここ西洋にはありません。でも中東にはあります。私が言っているのは、兄弟愛を示すことです。子どもの頃、忘れられないのがこれで、叔父や叔母が、父や母の兄弟姉妹が来ると、挨拶が大げさだったのを覚えています。実際、私にとってはとても気まずく、居心地が悪かったんです。なぜなら、彼らは男性だからです。そして、彼らは互いに抱き合い、頬にキスをします。あれはやりすぎです。そして、一方にキスして(チュッ)、もう片方の頬に(チュッ)、時に左右左右に、キス、キス、キス、ハグ、ハグ、ハグみたいな感じでした。もう十分だから！って感じです。彼らを愛してるのは分かったって。そして、ここで注意したいのは、これが問題になる可能性があることです。これは聖なる抱擁です。それを少しだけ、聖霊に預けてみてください。聖なるハグと聖なるキス。この愛情表現における文化的躍動感、自分がどれだけその人を愛しているかをその人に示すものでした。そして、共に食事をしてパンを食べる時、同じパンから食べるのです。ちなみにこの木曜日は聖餐式です。これが聖餐式のテーブルに置かれます。同じパンから食べ、同じ杯から飲む、共通の結合/a common union、聖餐式/communion だからです。再度、私たちの西洋ではこれを見逃します。悲しいことです。中東では、誰かと一緒に食事をする、死ぬまでその人に忠誠を誓う

意味です。死ぬまでです。それが文化です。家に入ると、この木曜日の夜、「エレミヤ書」で見ることになりますが、狂っているのが、この悪人は.....ネタバレですが、彼は家の中に入り、とにかく、もう話しません。木曜日の夜の礼拝に来てください。ここで置いておきます。クリフハンガー/ギリギリです。

でも、人の家にいる時は、その人の保護下にあります。その文化で一緒に食事をする、ちなみにこんにちもですが、あなたは今、彼らに誓う事になり、彼らと結ばれ、彼らとの共通の結合です。あなたの中にあるパンは、私の中にある。同じ杯から飲む。今、私たちは絆を深めている。これは生理的なものです。再度、聞いてください。私たちが触れ合うと、神から授かったホルモンや化学物質が放出され気分が良くなります。言いたいのは、恐ろしい邪悪な医薬品があるので、気をつけなければなりません。それは、オキシコンチン（麻薬の一種）ではなく、オキシトシンだと思います。その缶を開けてはいけませんが、オキシトシンというのがあるんです。これは、手をつなぎ、ハグをするとき、キスをするとき、人間の体内で放出される神が下さった化学物質です。そしてまた、これは共にパンを裂くことにも繋がります。というわけで、ここで面倒なことになりそうですが、何でもいいです。この時点で失うものは何ともありません。「箴言 17:1」に、ご主人方、ここは恵み深く願います。「一切れのパンを食べる方がよい」というのがありますが、「箴言 21:9」を見ると、始まりが、

「争い好きな女と一緒に上等のリブを食べるより、屋上の片隅で、一切れのパンやパンくずを食べる方がよい。」

ですから最初は家の中から始まります。あなたは今、屋根の上において、そこからさらに、荒野で食べる方がいいんです。(箴言 21:19 参照) だから今はもう、家の中にもいません。-(笑)- 皆さん、本当に描写が分かったでしょ? では、その「何」の裏にある「理由」は? だからこそ、人と一緒に食事をする時、絆が生まれ、争いがあるとそれが損なわれます。私が幼い頃、母方の家系でお家騒動がありました。恐ろしいことになりました。つまり、聞いてください。アラブ人は、反目し合う方法を知っていますよ。このことは7年間続きました。つまり、私たちは正しい方法を知っています。7年です。ついに、彼らは和解し、それで大宴会します。叔母たちが何ヶ月もかけて準備し、計画し、大宴会を開きます。そして、そのことが彼らを和解させ、食べ物を中心に再び結合させます。なぜなら、誰かと一緒に食事をする、生理的な動きが起こるからです。誰かをランチに誘うのとは訳が違いますよね? 昼食に誘い、食事をして、分かち合い、親睦を深める。お腹が減りますけど...食事は美味しく、親睦は深まります。そこには生理的な躍動感があります。その人と今のあなたの関係は、永遠に変わりました。つまり、一緒にいたくない人をランチに誘うことはないでしょう? つまり、どう機能するのか? あなたは荒野に身を置くことになります。一人用のテーブル。それで、私が何を言おうとしているのか分かります? これが愛の実演です。これが愛の表現です。聖なるハグ。聖なるキス。それが愛情表現です。ここ欧米ではどうするのか? 私たちは握手をします。マジ? そして、手を洗います。特に今はね。「うーっ!」という感じです。ここ中東では、ピタパンをフムスに浸して、2度漬けます。ここでそれをやると、まあ、荒野に出ることになりますよ。ダメダメ、それは2度漬けますよ。中東では違います。あなたのばい菌は私のばい菌。そんなの関係ありません。私たちは一つです。それが愛です! それが愛の表現方法です。私に特権は、これで締めくくります。

「イエス様、締めくくりに感謝です。」と仰る方もいらっしゃいますね。本当にそうです。本当に、本当に、もう締めくくります。いいですか? しかし、私の特権で、深い特権で、主は私がこれを言うとき、私の心を知っておられます。地元の人でも、遊びに来ている人でも、誰かと会ったり話したりする機会、

これは第一礼拝後に起こったことです。ある人、何年か連れ添った夫が、主のもとに帰っていった事を話して、ある人は最近、妹さんを亡くされました。そして、彼らは涙を流し始めます。もちろん、私も涙を流し始めます。なぜなら、あなたは泣いている人と共に泣き、喜んでいる人と共に喜ぶからです。

(ローマ 12:15 参照)

それが健康な体の機能ではないでしょうか？ 体の一部が痛むと、体全体が痛みます。それが健康体ですね。他の部位が感じないのは問題です。聞いてください。私は逆むけになったので、主にお願ひしています。「お～、イエスよ！お願ひします！」私は痛みには耐性がありません。でも、ここに逆むけがあると、全身がこうなります。「お～～いっ！ どうしたの？これは痛いぞ！」「何言ってるの？ それは指。あなたはつま先じゃん。」「分かっているけど、傷みを感じるんだ。」同じ体の一部です。興味深いのは、裂かれたパンは体であり、砕かれたお体の象徴です。なぜか？ 結合するため、和解するためです。では、これで完了です。締めくくります。そうすると言ったからには、そうします。私たちは、私自身を含めて、聖書の観点からこのことを再検討しませんか？ なぜなら、最初の2つは当時の彼らの永遠の視点ですが、2番目と最後の2つは「今、ここ」のための視点だからです。それが、今ここで私たちが、永遠を前にしてできることです。互いに愛し合い、深く愛し合う。ちなみにそれが基準です。イエスは仰いました。

「あなた方がわたしの弟子であることを、どうやって人々が分かるでしょう？」あなたの聖書の大きさは？ いいえ。どれだけ使い古されているかで？ いいえ。もしそうなら、私は弟子ですよ。それがあから捨てられない。何年も何年も前から持っています。いいえ、私たちがイエスの弟子であることが分かる方法は、互いに愛し合うことです。(ヨハネ 13:35)

お～願わくば、言われたいです。「あの人たちは、本当に愛し合っている。」いいえ、本物です。偽物の類ではありません。本物です。彼らは本当に愛し合っている。さて、最後にもう1つ。この教会、私は神を褒めたたえます。この教会は本物です。ここは愛溢れる教会です。ここは祈りの教会です。この教会の牧師であることは、私の深い特権で、これほど私の心を祝福してくれるものはありません。そして、誰かが訪ねてくると、先週はその良い例でした。皆さんに紹介した私の友人たちは、いやあ、ぶったまげましたよ。ありがとうございます。私の友人への愛を。彼らは、ただただ驚いていました。彼らの教会は、ある意味大きな教会です。彼らは言いました。

「あなたの会衆は、いったい何？ 私たちは一度もそんな、ここは愛溢れる教会です。」

私は言いました。「知っています。実際、私がこの教会の牧師でなかったら、ここに通っていたでしょう。」そういう事です。しかし、誰かが私にこう言うのを聞く時ほど、私を祝福するものはありません。

「私はここを訪れて、玄関を入ったとたん、どれほど祝福され、どれほど愛されたか。」

実は、駐車場で私たちのチームから始まるんです。あなたがたは、すごいです。一拍手— ええ、主を讃えます！ これから言うことを本心から言える牧師は、実はあまりいません。皆さんは、牧師の仕事を喜びにしてください。私はそのことをありがとうございます。皆さんをとっても愛しています。

ではカポノ、上がってきてください。一拍手— またマスカラが、滲んでしまいました。(笑)

天のお父さま、本当にありがとうございます。神よ、感謝します。主よ、感謝します。主よ、本当に、本当にありがとうございます。主よ、これはある意味、このペテロの手紙全体の中で最も良い部分の一つです。なんという終わり方なのでしょう。なんという締めくくりでしょう。主よ、なんという力強さでしょう。どんなに役立つことでしょう。どんなに励みになるでしょう。主よ、私たちにはこの視点が必要です。私たちは、全てを視野に入れる必要があります。ですから主よ、本当に感謝します。本当にありがとうご

ざいます。私たちを愛し、慰め、励まし、強めてくださることに感謝します。今、主よ、私たちが他の人々のためにそうできますように。イエスの御名によって。アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7